

すこやかちゃん



あい な 愛奈ちゃん(平成19年10月7日生)
両親＝林 広一・美有紀さん〔仁玉〕
「初めてのプールは楽しいよ！」
ビキニ姿のお茶目な愛ちゃん。」



ゆう と 由翔ちゃん(平成19年8月4日生)
両親＝山崎光由・静枝さん〔鎌数〕
「お腹すいたよー！」
ぼくは食欲旺盛なんだ」



り あ な 梨亜奈ちゃん(平成19年8月12日生)
両親＝高木正裕・真由美さん〔長部〕
「もうすぐ1歳！」
沖縄にいきたいなあ。パパ～♡」

すこやかちゃんを募集しています

掲載ご希望の方は、秘書広報課広報広聴班(〒289-2595旭市二の1920・☎62-8070)へ。
対象は、小学校入学前の幼児です。申込用紙は、保健センター、海上保健センター、飯岡保健センター、干潟保健センター、秘書広報課にあります。



農村を救った和のサムライ 大原幽学

③ 耕地整理

幽学の業績で特に注目されるのが耕地整理です。

長部村の字八石(はちごく)は、当時は今よりもずっと幅の狭い谷田でした。大きいものは一反歩、小さなものは一坪程度の、しかもさまざまな形の大小の地割が混在していました。大雨のときは周りの台地から水がいつせいに流れ込み、被害を受けやすい土地でもありました。

天保十二年(一八四二)、幽学は門人たちの協力のもと、この水田を一区画一反歩程の短冊状に直し、畦をととのえ、水路の改良を行いました。その面積は二町歩近く、村をあげての大事業でした。この耕地整理により、それまで一反歩あたり四俵だった収穫量が、その後は五く六俵にも増えたといわれています。

国指定史跡となっているこの田んぼ、正式には「耕地地割」といいます。こうした近代的な耕地整理が日本ではじまるのは明治以降のこと。江戸時代ではほとんど例がなく、当時の区画を残すこの田んぼは、先駆的な事例として日本の農業史における貴重な産業遺産となっています。

平成十九年度には整備が行われ、



▲短冊状の区画が続く幽学の田んぼ

現在は幽学の里・米作り交流事業の舞台として、たくさんの方に親しまれるようになりました。今は農業の機械化がすすみ、一区画一町歩という田んぼも珍しくなくなりました。しかし、その原点はまぎれもなく、この耕地整理発祥の地にあるといえます。

〔大原幽学記念館 猪野映里子〕

暮らしのカレンダー

- 2日(土) サマーフェスタin矢指ヶ浦
矢指ヶ浦・飯岡海水浴場開設中(～8月24日(日))、
飯岡海浜プール開設中(～8月31日(日))
- 3日(日) 天の川ライブフェスティバル
(13:00～ 東総文化会館)
- 6日(水) 旭市七夕市民まつり
(～7日(木) 中央商店街路上ほか)
- 15日(金) 戦没者を追悼し平和を祈念する日

編集後記

日差しが暑さ、空の青、海鳴り、スイカ、花火のにおい。五感が夏の到来を実感させてくれます。暑い日が続く、クーラーや扇風機など文明の利器が手放せません。昔はこういった物がなかったと思うと、恵まれた時代に生まれてきた幸せを感じてしまいます。しかし、そこは現代つ子の私、それだけでは飽きたらず、涼を求めてつい冷たいものを取り過ぎてしまいます。あまり体にはよくなさそうです。「暑い、暑い！」と、文句を言っている線：(A)